

2月県議会報告

日本共産党福島県議団
電話 〇四(五二)七六一八
FAX 〇四(五三)三三五六
Eメール jopkskg@jcp-fukushima.gr.jp
ホームページ http://www.jcp-fukushima-pref.jp



神山悦子県議



長谷部淳県議

「3大切りすて」は許せません 大型プロジェクトにしがみつき県民のくらし後回し

新年度の県予算案(当初9096億円)を審議する二月定例県議会は、2月19日に開会し、3月19日までの30日間の会期で開催されました。一般質問に神山悦子議員が立ち、総括審査会では長谷部淳議員が質問しました。

2月補正予算案の反対討論に長谷部淳議員が、02年度普通会計決算認定には神山悦子議員が反対討論に立ちました。最終日には、当日提案された人事案件14件を含め99議案の採決が行われ、当初予算案など8件(人事案件2件を含む)に反対し、討論も行いました。意見書7件は全会一致で採択。党県議団が紹介議員となった請願は4件でした。

佐藤県政の16年 大型プロジェクトの連続で借金増大 生活と市町村応援の施策充実こそ

神山議員 一般質問

一般質問に立つ神山悦子議員は、5選出馬表明した佐藤知事の16年間の県政運営にふれながら、県民生活と市町村応援の県政への転換を迫りました。

を越える県税収入の落ち込みと小泉政権の「三位一体改革」による地方交付税・臨時財政対策債の削減により財源不足は27億円に。これを本来くらしに回すべき予算を削減することで埋め合わせしました。借金残高は、県民1人当たり52万円となります。そのしわ寄せを県民や市町村へまわすとしたらとんでもないことです。

破綻した「財政構造改革プログラム」

佐藤知事は、2期目の途中から大型プロジェクトを連続してとりにくんで借金を増大させ、01年の未来博が終わると「財政構造改革プログラム」を立て、緊縮財政をとってき

「3大切りすて」やめ充実求める

ところが、県は医療・福祉・教育の面での「3大切りすて」をする方向を明らかにし、県立病院の地方公営企業法の全部適用、県立社会福祉施設の民間社会福祉法人への委譲と県立大学の独立行政法人化の方向を検討しています。神山議員はこれらを強く批判しました。



一般質問に立つ神山悦子議員(3月3日)

度と新年度当初予算比では、民生費が50億円減、衛生費は33億円の減、教育費は17億円減と大幅削減。一方で、予想

市町村合併についても、従来の方針を転換し、合併してきた自治体へ1億円を助成し、合併を推進させようとしています。くらしと市町村を応援する県のあり方として問題といえます。

知事

プルサーマルは白紙撤回。今後一切考えない

総括審査会で質問に立つた長谷部淳議員は、原発問題で不正事件発生後、核燃料サイクル見直しを提言する県の姿勢を確認し、東京電力福島原発でプルサーマル計画導入について質問しました。

部議員は「今後も白紙撤回は変えない」ということと理解した」とのべました。

准看護師などへの支援を

また、「いのち・人格・人権の尊重」の具体化と行政改革については、県立大学・県立社会福祉施設などの法人化・民営化を批判し、看護師養成所二年課程通信制受講者への支援や、高齢者の高額医療費の支給引き上げなどを求めました。



総括審査会で質問(3月18日)

佐藤知事は「白紙撤回したの、その後のことは一切考えていない」と答弁し、長谷



県議会の役割放棄

原発運転再開
代表者会議で結論

県議会の代表者会議(自民・県民連合)は、3月3日の第二原発3号機に続いて、3月16日には第一原発4号機の運転再開を容認し、県当局も容認してしまっていました。

3月2日の県議会の工ネ協では、今後はエネ協で議論せず、代表者会議での確認だけで議会としての対応とすることを決めました。

他会派は、本会議や総括審査会でも、原発の運転再開や安全性の確保についてほとんど

ふれることはあり
ません。

議会の役割放棄です。



【裏面もお読み下さい】

全国順位に見る 福島県の姿(2001年度)

老人福祉費(65歳以上1人当)	157,300円・41位
老人ホーム数(65歳以上10万人当)	27.1・42位
児童福祉費(17歳以下1人当)	142,100円・47位
保育所数(0~5歳人口10万人当)	27.1・42位
一般病院常勤医師数(100床当)	7.2人・46位
一般病院在院患者数(常勤医師1人1日当)	10.8人・8位
身障者更正援護施設(人口100万人当)	7.1人・47位
消防吏員数(人口10万人当)	110.1人・34位
火災のための消防機関出動回数(人口10万人当)	130.5回・4位

県立病院
県立社会福祉施設
県立大学



